立教大學新聞
S.P.U.
一部金五錢　定價
五箇月分壹圓五十錢
廣告料　金壹十五錢
地位指定
實費
東京市豐島區目白町大學構內
發行所
大阪市東成區中本町
發行人　山口三郎
印刷人　石川四〇八
東京市小石川區
第四種郵便物認可

論說　力と熱の學園

支那の戰爭を見るに初めに於ては如何にも元氣に滿ちて如何々しいが時を經るに從つて一時は燃え立つ熱も力もなくなつて次第に倦怠の念を生じ中には己が利益の爲めに顧みに走り又は獨立を宣言する者等が續出して何時とはなしに終局をつぐるのである、故に支那は何時の世も改造される事なく常に內亂が絶えないのである、そして國民は物質的に又精神的に全く疲弊して厭惡へとやがては急ぐのである、併し支那と雖も眞の憂國の士は多々あるが餘りに一般國民が極端な利己主義に支配され統一性を缺いてゐる爲めに國內統一の實を擧げて東洋に於ける一大國の面目を保ち得ないのである、併し此の如き傾向は一人支那のみならず我國へも幾分其の影を投じてゐるのである、國運太戰後物質文明の勢いよ〳〵盛んにして精神の氣風は益々乏しく地を拂いて一般人心は享樂主義を謳歌するの有樣となつた、殊に日由を穿き違へた放縱の精神はいよ〳〵女婦に贈して一時的の快樂に酔つて輕調浮薄の風を生むに到つた、殊に第二國民として將來立つべき現代青年の間にかゝる傾向の甚しい事は誠に悲しむ可き事實である、不穩底な人生觀に滿足し徹底な人生觀變觀に酔つてあたら青年の誇りとしてゐるのを見るは實に採嘆に堪へないのである、斯ふした浮薄な風は何時の間にか我學園にも流れ込んで在來の神聖な空氣を一掃する傾向を示し始めた、私達はかゝる傾向に對して力と熱とを以て對抗するの勇氣がなくてはならぬ、併し我セントポールの學生はかゝる青年の力と熱とを既に通い昔に於いて忘却してはいないだろふか、何時の間にか安價な而も不安な自己滿足心に滿足して學生らしい氣質を失つてゐないであろふか、純な自由な春風は今やじだらくな濁風として漂つてはゐないだろふか。そふして其空氣に一般學生が滿足してはゐないだろふか、私は近頃盛に學校當局に對する不平の聲を聞く、勿論其不平たるや、午後の授業に對しての不平もあろふ、又學校の方針に對する不平もあろふがともかく何れの學生の口からも不平の聲を發するは事實である。併し其不平たるや常人のそれに等しく其處に少しの熱も力もなく不平は不平として何時解決さるべきとも見えないのである。眞に此一大不平を解決せんと欲せば全學生が一致團結して安價な利己主義を捨て、眞に學生らしい熱心さと力とを以てせずんば其れは到底不可能な事である、現今諸學校を見るに其の根本主義を忘れて只會社銀行に入るの階段となつて了つたのは誠になげかはしい現象である、學校は眞に學問を研究する所でなく諸會社の支店の如き有樣を呈して來た、我セントポールは此の如き現象から脫却して社會的に有爲の青年を教養せねばならぬ、我なつかしの學園を過去の花園として淡い憧憬の念を以て追懷するのみでなく將來もよりよき學園としなくてはならぬ、そふする任務こそ我等の双肩にかゝつてゐるのである併しそうするためには先づ各自自らを反省し改造して新らしき力と熱とを呼び起さなくてはならぬ、汚濁なる空氣を一掃して眞理を肯定し力と熱とを以て進まねばやがては我理想とする所のセントポールを實現する事が出來るのである、青年といふ力强式から熱と力とを引去れば殘るものは零に等しくなると同樣に我學園からして力と熱とを引去れば殘るものは零に等しくなると云へない。學園の榮枯盛衰は實に我學園の生活が精神的生活を決定するとも云へない。學園の隨者が相反發作用をなすものと考へることが適當であらう。然るにキリスト教は精神へと引張つて觀念の世界に人間を住ませようとする。しかも其の觀念たるや生活に必要なる物質的條件によつて縛られたものに過ぎないのである。そして、物質的苦痛を社會へ入りこんで、物質的條件の下に觀念化された、神の福音の名によつても有利な、神の福音を所謂精神的なる神によつて捨てる爲の苦痛を——ごま化させようとする手段であるかの樣に映る。こうなると眞にキリスト教はプロレタリヤの宗教ではあり得ない。キリスト教は物質によつて支配され始めたこう云ふと前に述べた精神と物質の相反發作用を否定する樣である。實は決してそうではない。或一時代と他の時代との間に於て此の理を主張するのであつて、一時代內部についてはむしろ、一方的に傾くものであると信ずる。例へば天保銭も、其の時代には流通價値を認められたであらう。併し其の價値は直に今日では認められない。御寶の小屋まで一銭に下る、丁度十二時なので晝食、其後可なりのラスト（ビーをかけて漸くに甲府に着いたのは夜の十時、もう一度思ひ出して見る、知覺にして白雨が、森林帶をおそひ下の方から大氣流木を包かくして行く、その美妙な變化は實に感嘆以上の神秘にして我奥秋父の森林帶の中にあつて實感したのであつた。

奥秩父縱走記

山岳部

山岳部は秋季山岳旅行として第一班は今村氏指揮の下に期日、今井、寺田、岡田、鹿山一行八名は奥秩父の主峯として名ある甲武信岳の攻略、十文字峠（二〇七一米突）國師岳（二五九一）奥千丈岳（二四〇九）朝日岳（二一五八）鋸山、金峯山（二一五九五）等の高峯また高峯、その尾根づたひに縱走する爽快さは、又奥秩父の特徴とする所で都會は此れを沒行せんとしたのである。山行はこの樣走じて初めて鍛錬されるなる快とする。奥秩父の山々は屋根が夜の九時半やつと夜の十一時に夕暮にありつく事が出來た。▲第三日　梓山から國師岳と朝日岳との鞍部まで四里餘、白木屋旅館を朝の八時半出發、この山奥の村では最早氷が張り氷柱が下つてゐる程の寒さである。十一時に最後の鞍板所小屋に着。又急坂を登ること一時間にして巍々雲晝食。いよ〳〵國師の頂に向つて登る、この途中は道無き所を通るので同じく倒木多數のため可成の苦痛を感じる。午後二時半國師岳三角點着。國師山頂に立つて神秘の世界の不純事を思ひ起し、あたら尊き五名の山の犧牲者を弔ふ、十文字峠にて夜となつた、二千米突以上の夜氣は、さすが肌をさす樣である。夕暮も暗はずに歩いた、八町ケ原い樹から遠く梓山の燈火を見た時は嬉しかつた。梓山の白木屋旅館に

我等は忍べるだけは忍んだ！

商本一の授業午前復舊要求熾烈を極む

本三、本二が第六授業を午前に移しつゝある間に最後まで残された形になつてゐた商本一は先に委員を挙げて當局に對し午前授業の徹廢なる要求を提出しつゝあつたが三十日午後一時より第十四教室に商本一大會を開き委員の報告に基き各自意見を吐露し合ひ火の如き熱誠に燃ゆる中に決議を表した。委員野村立夫、村上國雄両君の報告によつて「學校は既に前者人の意を體し、図書館樓上の柔道部及びその向ふ側の部屋を三個の教室に模様更へをなしそれによりて能ふ限り授業を午前に移す事に決定した。但しこの教室の使用に就きては當然理科にも関係を分つ故に一週六日間のうち必ずしも全部が午前より始まるものとは限らないからこの點は我慢して欲しい。このために目下進行中の校舎整理を延期せねばならず約一万圓の費用を要するので學校側としては少からざる犧牲を掘つて吾人の要求に應じたわけであると考へてゐる」と述べるや我々にはすでに二年に亜ぐとする年月忍べるだけは忍んできた、これ以上午後の授業を受くる能學上の支障に堪ふるわけにゆかない、學校の提案にては一週三回位午前にはしまるに止まるやも知れずその點が満足の譲味であるとの意見多く直に學長の出席を乞ひ直接に各自誠心の希望を吐露し温雅そのものである岩澤勝君すら眞摯な熱辯をもつて學長に逼り寧むしろ悲壮なる光景を呈した。これに對し學長は種々陳述するところあり結局新に委員を挙げて問題の解決に關與することになつた。新委員次の如し。

理科、岩澤、鶴尾、宮本、鶴川、高橋、江尾、清水、事務、村上、の諸君。

備品部委員は十月廿日午前九時より校友會館に集合し當局との交渉に關する具體的方法を決定した。

愛と自由の立教學園に國際聯盟學生支部の開設を見んか？

要は學生の決意如何

國際大學と稱してもよい吾慶應に國際聯盟の支部の件につき具體的の交渉をなし五年前校せるも神氏は直ちに支部設置